

第2期 第3回向日市エコ地域推進委員会 会議録

- ・ 日 時 : 平成20年10月6日(月)
午前10時～11時45分
- ・ 場 所 : 向日市役所 大会議室
- ・ 出席者 : 委員 12名 (1名 欠席)
木村市民生活部次長 山本市民生活部次長
谷川課長補佐 笹田係長 高津総括主任
- ・ 傍聴者 : なし
- ・ 議 題 : 1. 向日市まつり出展について
2. 視察研修会について
3. その他

(座長)

「ノーレジ袋・マイバッグ運動」の事業者への依頼文について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

前回の会議において、「ノーレジ袋・マイバッグ運動」の今後の取組について、行政と推進委員会との連名で事業者への協力依頼ができないか、とのことから、事業者への協力依頼文(案)を作成したので内容について検討していただきたい。

また、依頼文の配布方法についても意見をいただきたい。

(座長)

長岡京市は、10月1日から31日まで「ノーレジ袋・マイバッグキャンペーン運動」をされる。

長岡京市では、昨年2800万枚のレジ袋が出た。Lサイズのレジ袋で換算すると210トンの廃棄物の重さになる。長岡京市としては、業者や消費者にお願いして、マイバッグを5割以上にもっていきたい、との今回の運動の趣旨で今年目標としている。

10月3日には、西友など5ヶ所に、各種団体、市民環境団体及びPTAなどいろいろな団体がキャンペーンを実施。

1年間経って2800万枚が減らなかった場合は、次の段階として、レジ袋の有料化を業者に要請するとか、スタンプ制度を導入するなど、次の段階を踏む。

先日、9月30日の街頭啓発のとき、ライフシティとサティをつなぐ通路では、マイバッグの持参者が多かった。街頭啓発の効果が上がってきているような感じがする。

今回、他の業者についてもどのような形で協力していただけるのか。

市の方では文書の素案を作ってください、またどのような形で配るのか皆さんにご検討いただきたい。

(委員1)

長岡京市の2800万枚はどこから出てきた数字なのか。

(座長)

大手の業者に対して何枚レジ袋を仕入れているか。その数字だと思う。

小さな店は別です。大手の西友、イズミヤの関係からだいたい枚数を割り出した。

(委員1)

去年は2800万枚。今年はその枚数が減るのかという話ですね。

それでは向日市では、何枚出ているのか。具体的な数字が出てくると、啓発をしている側としても、枚数が減ればやった甲斐があるのではないか。

(座長)

今の現状を見てみると、一部では理解されているが、されていない業者も多い。

向日市は実施してまだ1年で、この人数の中でサティ1ヶ所でやっている。

サティの正面と裏でしかできていないので、その把握はできていない。

ライフシティとサティとの通路に2回立った。高齢者が多いせいか、マイバッグの持参者が多いのは確認済みである。しかし、若い人には浸透していない。

いずれは、サティにもレジ袋がいくら出ているか統計を取ってもらわないといけないと思う。

まず、第一に、向日市の業者、グリーン購入の店があるけれど、まだまだ浸透していないのではないか。

エコ推進委員もやっているので、協力をお願いしたい、との依頼文書は必要。

今までは、依頼文書もなく、ただ広報に載るだけであった。

これだけでも出して、一応どういう形にされるか、役所発信で出された場合、意味が通じてくるのではないかと思う。

(委員1)

この文書について言っているのではない。

向日市でもサティやライフシティ、マツモトに、何枚仕入れたか聞けばわかるのではないか。

(座長)

だいたいわかります。

(委員 1)

第一歩として、文書を出すと同時に数字を知りたい。

(座長)

そういう意見が出ていますがどうですか。

(事務局)

この協力依頼文書を配布するときに、店側の今の現状を聞くとか、そのような形の調査は可能です。

(座長)

それでも結構ですけど。

小牧市も9月1日から市を挙げてキャンペーンを実施している。

小牧市では5800万枚レジ袋が出ている。それをマイバッグ運動を通じて消費者及び事業者に対して、どう削減するかという運動を展開されている。

できたらそういう形を行政にお願いしたいと思う。

(事務局)

以前にも話に出ていましたように、行政が配布するのか、皆さんと行政が各店舗に配布してお願いするのか。

今後の方向性として、配布の方法をこの場でご協議いただきたい。

(座長)

では、どのようにしますか。

(委員)

行政とエコ推進委員と一緒に持つて行く。

(事務局)

そのときに店側のレジ袋の使用枚数を尋ねてはどうか。

(座長)

前回の会議の中で、このまま街頭啓発をしても、ただティッシュを配っているだけでマンネリ化になり、進歩が見られないとの意見があった。

提案ですが、市の庁舎に「ノーレジ袋・マイバッグ運動」の垂れ幕を掛けてはもらえる予算はないのか、との意見があった。

人権の垂れ幕はあるが、環境はないので予算の捻出をお願いしたい。

(委員 1)

唐突に依頼文書を持って行き、その場でレジ袋の枚数を尋ねた場合、店側

としては、把握していないので調べておきますと言われ、その場で終わってしまう可能性もあるので、文書の中に昨年のレジ袋購入枚数をお聞きしたいとの文言を入れておくといいのではないかと。

(座長)

それはいいのではないですか。

(委員 2)

データを取るのが目的ではない。エコを推進するのが目的なので、先ずこの文章でいいかどうか、一度読んでからその文書に対する意見を言う。

行政は私たちの意見を取り入れて、エコ推進委員会と一緒にやっていたところまでやってくれた。

そういうことを認めて、次にデータを取るという話しであれば会議としてスムーズな流れである。

(座長)

小牧市も各業者に対してこのような文書を出されている。

その後、事業所の取組状況の統計をとっている。

第 2 段階の取組として、業者間でノーレジ袋の事業締結の取組をされている。

先ずはお願いとして文書を出されていて、次の段階は、その文書の回答によって、レジ袋を出し続けるのか、有料化にされるのか。回答によって判断する。

今、街頭啓発の参加者はだいたい 5、6 人。その中で場所を広げて啓発することは難しい。この文書を出した限り市長は、市の政策のひとつとして取組んでほしい。

皆さんこの文書でよろしいですか。

(委員)

よろしいです。

(委員 3)

会社や販売店のことを考えると、今すぐに下げてくださいといっても無理だと思う。実際に会社の方針や戦略、目標があって、トップの段階で決まってくる。

数値の展開をしようということになると、2 ステップ 3 ステップが必要。

向日市の商工会にサービス部会があるが、レジ袋を減らす話は出てこないもので、連携しながらやっていかないと。

(委員 4)

こちらの方針が決まればサービス部会へ押していけばよい。

(委員 3)

あとは、ひとり一人の立場に立って意識を高める

(座長)

だんだんとマンネリ化になるので組織を作っていく必要がある。

配布については、マツモト、サティ、グリーン購入の店は先に行く方がよい。

(委員 2)

この件について商工会へアタックしているのか。

(事務局)

行政と推進委員会とで文書を出すことを考えている。配布の方法も商工会を通じて出すのか検討中であると商工会には伝えてある。

(委員 2)

大きな事業所から行けば、すそのを広げてもらえる。

(座長)

大手は勿論、商工会加入は商工会にお任せする。

(委員 4)

お任せするというよりも、いきなり神崎屋へ行っても商工会を無視することになるので商工会を立てていかないと。

(座長)

それはわかっています。

商工会に入っているグリーン購入店には入っていないところもある。

サティは商工会に入っていますか。

(委員 5)

大手のスーパーはたぶん、チェーンストア協会に入っていると思うので、協会としては一定の方向性を持っている。

(座長)

小牧市はチェーンストア協会その他の協会に入っている。

その中でマイバッグ運動をしている。

(委員 5)

行政の方で商工会を先に行って、そこから広げていけばよい。

(座長)

商工会には行政の方から行ってもらい、チェーンストア協会に入っているサティへは、本部からどのような指示が入っているのか、今後どのようにされるのか、行政とエコ推進委員会とが一緒に行っとうかがう。

(事務局)

事務局で大手を選び、委員にも行っていただきますので、日程調整をいたします。商工会へも行政と推進委員会とが一緒に、お願い事項ということで行っていただきたいと思います。

(座長)

今後こういう形で進めさせていただいてよろしいですか。

(委員)

はい

(座長)

向日市の中学校弁論大会で西の岡中学校の杉浦さんが「エコバッグ使用について」で市長賞をとられました。

次に、「ノーレジ袋・マイバッグ運動」のアンケートについてですが、どうされますか。

(委員 5)

場所はどこでされますか。

(座長)

街頭啓発のときは無理なので、向日市まつりでやればよいと思っている。

アンケートの内容については、どうされますか。

昨年度は地球温暖化についてしました。

今回のまつりでは、消費者の会が地球温暖化についてされます。

今年度はごみ削減についてやっていきたい。それも地球温暖化の一環と思っている。

(委員 2)

中身はそれでいいです。エコということばだけは入れて下さい。

(座長)

……アンケート内容説明……

(委員 2)

質問内容について、「○」か「×」ではなしに、「どうでもいい」欄、真ん中は設けにくいものですか。

(委員 6)

この内容の方が、結果がはっきり見えていいのではないですか。

(委員 5)

レジ袋は、もらう・もらわない、忘れたときはもらうこともあるので、時々という真ん中があってもいいのではないか。

(委員 5)

それはいいですね。

(委員 4)

今年限りではないので、来年にそのあたりを変更し、今年はこれでいいのではないか。

(委員 5)

「クリーンプラザおとくに」がどこにあるかご存知ですか。との問いについて、場所（地名）を書いておけば、少しでも記憶に残るのではないかと思う。

(座長)

最初は入れようと思ったが、長岡京市と大山崎とを書かなければならないので長くなってしまいますので。

(委員 2)

もう3年もなるのだから、「エコ地域推進委員会議」が向日市にあるのはご存知ですか。との問いはどうですか。

(委員 4)

一番下の地球環境を守ることについての問いの代わりに、最後に入れてはどうですか。

(委員 2)

最初でも最後まで。

(委員 4)

男女別、年齢（年代別）まで入れてはどうですか。

(委員 1)

アンケートに答えた人に何か渡してはどうですか。

(座長)

ティッシュでよろしいですね。

(委員 7)

アンケートには、どこが出しているのか書いておかないのですか。

(委員 2)

常識的には、アンケートはどこが出しているのか書くものですか。

(事務局)

普通はそうです。

(委員 2)

それではそうしましょう。

(座長)

「エコ地域推進委員会議 市民アンケートの問題」それでいいのではないですか。

(委員 2)

「エコ地域推進委員会議」を上か下に入れて、責任の所在をはっきりする。

(委員 4)

下に、「エコ地域推進委員会議 ご協力ありがとうございました」ではどうですか。

(事務局)

「エコ地域推進委員会議をご存知ですか。」の問いを一番上に入れて、一番下の問いは削除して、後はこの内容をもとに事務局で作成します。

(座長)

次に、3 番目の向日市まつりの展示については、前回と同じということです。

(事務局)

昨年と同様、同じ場所で展示内容も同じです。

アンケートをこの場所でされますが、クイズも昨年同様に予定をしているのですが、2 本立てでするのですか。

(委員 2)

クイズは行政がするのですか。

(事務局)

エコです。

(座長)

昨年は 6 月頃から、エコ推進会議としてまつりについての意見を出していた。今年は、今回始めてまつりについての議題があがり、10 月末にはまつりの実行委員会で決定される。

まつりの情報をもっと早く知らせていただきたい。

1 つのコーナーの中で地球温暖化のアンケートとマイバッグのアンケートの 2 つはできない。市民に 2 つは聞けない。

(委員 5)

アンケートとクイズを同時にするのではなく、時間をずらしてやる。

2 日間あるのだから、いくらでも対応できるのではないのでしょうか。

アンケートの枚数を 100 枚・150 枚を目標にすればいい。

(委員 6)

クイズの方は、子供向け、アンケートの方は親に。

(座長)

牛乳パックとエコバッグを交換すると聞いている。

その交換をエコのコーナーでやってはどうか。

(事務局)

牛乳パック 2 つか 3 つでエコバッグを渡す。パックの数も渡す場所もまだ決まってないが、一体化するならば、エコのコーナーで渡すとか。

第 2 回目の実行委員会で言うておく。

アンケートに協力してもらったら、粗品はティッシュでもいいが、まつりの予算の中から、何か渡せるものを実行委員会に要請したい。

(座長)

そうなれば、委員の方々にもお手伝いいただきたい。

今回消費者の会は、「地球温暖化」をテーマにされる。

私は、エコとして地球温暖化防止の一環である「ごみ削減」でいこうと思っている。

(委員 2)

コーナーも「エコ地域推進コーナー」でいいのではないですか。

地球温暖化防止もごみ削減も同じことですが、折角エコ地域推進委員会議の名前があるのだから、それを使えばよい。

(事務局)

クイズを作るにあたり、委員にお手伝いいただきたいがどうですか。

(委員 2)

その前に、アンケートとクイズを一緒にするかどうか決めてしましましょう。

クイズは子供用として、アンケートは 2 日取り続けられればいいと思います。

(委員 1)

私もそう思います。

まつりのことについては、座長の言うとおりに最初から矛盾だらけ。ごみを減らそうと言っているのにごみを出している。レジ袋を減らそうとしているのに、いっぱいレジ袋を使うのは矛盾です。

(座長)

これらは、次回、10 月のまつりの実行委員会で、商工会はどういうようにお話をされているのかお聞きしたい。

(委員 2)

クイズの中身について何かあるのですか。以前のままでいいと思いますが。

(座長)

クイズの景品はおもちゃですか。

(事務局)

軍手があるのでそれを使いたい。

(座長)

予算もあるのだから、何か考えてほしい。

(事務局)

検討してみます。

(座長)

昨年、「ごみを減らしましょう。お買い物はマイバッグで」と小さな見えないような字で書かれてあった。今後どういうようにアピールされるのか。

(事務局)

今回は環境の問題を大きく入れるので目立つような形で、と思っている。

(委員 3)

先ほどの話で、中学生が 1 位になったことや、第 2 向のエコ活動や、市役所のゴーヤの写真コーナーで展示してはどうか。

(座長)

今回はこのような話題があるので、それを主体としたまつりも必要であると思っている。

市役所のゴーヤの写真はありませんか。

(事務局)

撮っていると思います。

(座長)

アンケートについては事務局で作成してもらおう。

(委員 8)

昨年、温暖化防止コーナーの場所がみにくいところがあるので、お客さんが入ってこなかった。前へ出て呼び込んでいたくらいだった。

今回は前面にだしてお客さんが入るような工夫ができないものか。

(事務局)

今回は京都府から電気自動車を借りるので、その置き場所が出入り口あたりになれば、注目を浴びるのではないかと思っている。

(座長)

昨年くらいから、このようにまつりで積極的に動くようになってきた。

もっと実績を積んでいきます。

(委員 4)

6 月の実行委員会でどういう方針でいくのか、お互いにわかっていなかったのだから、来年はこれを基本にして方針をかためていけばよい。

(座長)

早い時期にこちらの方針を決めておく方がよい。

(委員 4)

来年に向けてのイメージを作っておけばよい。

(委員 3)

昨年のクイズの中で、液晶とプラズマとの比較は、条件によっては、プラズマの方が電力は安いので、今の時代に合っていない問題は変えた方がよい。

(座長)

これでアンケートについては、よろしいですね。

(委員)

はい。

(事務局)

向日市まつりは、11月15日は10時～4時、11月16日は10時～3時まで。

委員の方々にお手伝いいただきたいので、参加できる日を報告いただきたい。

場所については、池のあたり（図面参照）に変えることもできるので、要望を出してもらってもよい。

(座長)

次に視察研修会の案内について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

……日程等説明……

(座長)

皆さん多数の参加をお願いします。

次に、講演会の案内をお願いします。

(委員 3)

「環境マネジメントシステム取得」案内

(事務局)

「第10回クリーンプラザおとくに リサイクルデー」案内

(座長)

先日、竹炭作りに参加された方、いかがでしたか。

(委員 6)

竹炭作りの設備については高額な費用がかかるが、申し込めば1回2400円で釜を借していただける。

今回は使用する竹を切って準備をしてもらっていたが、それでも煙の色が変わり、フタをするまで1日がかかりであった。

最初から、放置竹林の竹を切って、その竹を出して釜に入れるまでの準備をすることになると大変のものである。

(座長)

次に、エコとして、マイバッグ運動の他に何か取組むことがないか、とのことから、生ごみを、各家庭でダンボールで回収している所があったので、その資料に基づき試してみたところ、ダンボールで生ごみを堆肥化すると、置く場所が限定されていることや、毎日攪拌しなければならないこと、また貝や骨、卵は砕いてから入れなければならないし、魚のはらわたは入れたがダメであった。

(事務局)

8月26日に「乙訓竹の再利用調査研究連絡調整会議」を立ち上げ、竹炭の問題や、今回は竹からのバイオエタノール及び水素の生産と悪臭の分解、消去の研究を、府立大学でされることになった。

竹の問題は二市一町の共通課題でもあり、向日市市議会議長が、竹の利活用プロジェクトの提言をされたことから二市一町で取組むこととなった。

(委員 9)

4月に「はり湖周辺の自然を守る会」を作り、まちづくり条例に基づき一つの団体として認定された。

開発により景観が破壊されている。

2ヶ月に1回はり湖周辺の清掃活動をしています。10月12日10時に清掃活動があるので協力をお願いします。

(委員 2)

先ほどの話ですが、エコ地域推進委員会として、「ノーレジ袋・マイバッグ運動」の他に何か取り組みはありませんか。

(委員 9)

私は、ダンボールではなく衣装ケースでやってみましたが、3~4ヶ月たってもできず、中途半端で終わってしまった。

ダンボールに限定しなくても、市からの補助金を受けられる容器もある。

(座長)

生ごみを土の中に入れると完全に堆肥化している。

(委員 2)

委員のひとりだけがやっているのではなく、どこかモデル地区を作って広げられないか。

(委員 5)

ダンボールは置き場所が問題だと思う。部屋の中で、通気性が良く、40度以上であること。それがむつかしい。

(委員 8)

経験上、いろいろ試したが土の中が一番。匂いもないし、攪拌しなくてよい。すぐになくなる。

(事務局)

本日はどうもご苦労様でした。

皆さんからご意見がありましたことについては、事務局の方で検討を加えさせていただきます。また、ご協力をよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。